

くねっふ 議会だより

高齢者の元気を支える施策を
一般質問 ④ページ

182号



—幼稚園・保育園合同運動会—

このグラウンドでは、最後となる運動会
園児たちは、大奮闘!!

も	6月定例会で審議した議案	② ページ
	議決した意見書	⑨ ページ
く	防災講演会開催報告	⑩ ページ
	議員研修会・道内視察報告	⑪ ページ
じ	議会の主なうごき／あとかぎ	⑫ ページ

平成26年 6月 定例会 6月17日～6月18日まで

一般会計7,075万円を補正(追加含む)

平成26年度各会計補正予算については、原案のとおり可決されました。

一般会計(第2号)

歳入歳出予算に5,929万4千円を追加し、総額を42億1,743万8千円としました。

■主な歳出内容

- 町有住宅解体工事 250万円を追加
- 臨時福祉給付金事業
2,798万6千円を計上
- 子育て世帯臨時特例給付金事業
809万5千円を計上
- 農産物輸送促進事業費負担金
2,000万円を計上
- 農地・水保全管理支払事業負担金
(多面的機能支払交付金へ改正)
441万5千円を減額
- 多面的機能支払交付金事業負担金
2,284万5千円を計上
- 東幸町北3条線道路整備事業
850万円を計上
- 穂波南2条線道路整備事業
1,000万円を計上
- こども園建設工事実施設計業務委託料
4,064万1千円を計上

一般会計(第3号)～追加議案～

歳入歳出予算に1,145万9千円を追加し、総額を42億2,889万7千円としました。

■主な歳出内容

- 牧場トラクター購入費
1,145万9千円を計上

後期高齢者医療特別会計(第1号)

歳入歳出予算に5万9千円を追加し、総額を7,115万9千円としました。

■主な歳出内容

- 保険料等納付金(後期高齢者医療広域連合給付金) 5万9千円を追加

介護保険特別会計(第1号)

歳入歳出予算に776万3千円を追加し、総額を4億8,986万3千円としました。

■主な歳出内容

- 介護給付費準備基金積立金
274万7千円を追加
- 国庫支出金等返還金
501万6千円を追加

平成26年第2回臨時会(6月25日)

[議案]

- ◆財産の取得について…………… 原案可決
牧場トラクターをきたみらい農業協同組合から購入することに同意しました。
○契約金額 1,145万8,800円

条例の制定等

◆町税条例等の一部改正

地方税法等の改正に伴い、条例を改正しました。

（法人税割の税率の引下げ、軽自動車税の税率の引上げ等）

◆北海道市町村総合事務組合規約の変更

原案可決



上川中部消防組合及び伊達・壮瞥学校給食組合の解散脱退、道央廃棄物処理組合の加入、また、上川中部消防組合の解散により、鷹栖町と上川町が加入、滝川地区広域消防事務組合に赤平市が加入することに伴う脱退により規約を変更しました。

◆北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更

原案可決

上川中部消防組合及び伊達・壮瞥学校給食組合の脱退、道央廃棄物処理組合の加入に伴い規約を変更しました。

人事案件

◆農業委員会委員の推薦（議会推薦）

原案可決

平成26年7月19日に任期満了となる農業委員会委員に高城美恵さん（柏丘・再任）と畠

山由子さん（大谷・再任）を推薦することに決定しました。

任期は平成26年7月20日から平成29年7月19日までの3年間です。

報告

□専決処分の報告

報告了承

公用車の物損事故に伴い、相手側に対する損害賠償額の決定と和解について報告がありました。

□新型インフルエンザ等対策行動計画の策定

報告了承

新型インフルエンザ等対策特別措置法の規定により訓子府町新型インフルエンザ等対策行動計画を策定した旨の報告がありました。

□繰越明許費繰越計算書（平成25年度一般会計予算）の報告

報告了承

次の6事業の事業費

計1億2,446万8千円を平成26年度に繰り越した旨の報告がありました。

- ・道営訓子府北西地区農地整備事業
- ・道営柏丘北地区農地整備事業
- ・道営訓子府高園地区農地整備事業
- ・道営草地区整備事業
- ・旧訓子府駅周辺整備事業
- ・公営住宅建設事業

□ふるさとおもいやり寄付金等の運用状況報告

平成25年度のふるさとおもいやり寄付金等の運用状況報告がありました。

報告了承

教育委員会から平成25年度の活動状況に関して、点検・評価した旨の報告がありました。

報告了承

報告了承

□出納検査結果報告

報告了承

監査委員から4月から6月までの一般会計、特別会計及び水道事業会計について例月出納検査を実施した結果、出納事務は適法に行われ、異状ないとの報告がありました。

追加議案

◆議員の派遣

決定

議員の派遣を決定しました。

○北海道町村議会議員研修会及び視察研修（7月4日～5日札幌市・千歳市 全議員）

○道内行政視察研修（8月19日～20日池田町・帯広市・鹿追町 全議員）

○北海道町村議会広報研修会（8月21日～22日札幌市 西山議員（議会広報特別委員会副委員長））

議長宛ての文書の送付は議会事務局へ

議長宛ての文書を送付する際は、議長の自宅ではなく議会事務局まで送付くださいますようお願いいたします。

送付先 〒099-1498 訓子府町東町398番地 訓子府町議会事務局 問合せ先 ☎0157-47-2184

一般質問

5名の議員が町長、教育長に一般質問を行いました。



居小でのスクールサポーターの活動



上原 議員

高齢者の元気を支える施策を

町長 ▼ 新しい生涯学習・福祉活動の提案

上原 高齢者にとって、存在感を持つことは、心身の健康を保つ上で大切なことと思います。新しい発見や目標に

向かうワクワク感を持ち生き生きと暮らせる施策の取り組みについて、①現況施策の評価と課題 ②楽しく参加し生き生きと暮らせる

町長 人口減少により、896の自治体が消滅する可能性の発表があったが、人口が減少するほど自治体の役割が高まると感じています。

本町の老年人口は33・6%で今後10年間横ばいで推移します。高齢者対象の施策は「生きがいづくり」、「健康づくり」と「介護支援対策」の視点で取り組んでいます。

各種スポーツ・文化活動が広がりを見せて定着し、仲間づくりやコミュニケーションの

場所となっています。

介護予防教室などの福祉活動や事業と、介護支援対策事業での支援をしています。

各施策への参加者の高齢化や減少の状況にあります。

選択肢の多いライフスタイルが原因だが、さまざまな活動参加推奨のためにも新しい生涯学習・福祉活動の提案が求められています。**教育長** スクールサポーターの登録も多い状況です。

高齢者ニーズ調査にも取り組むが、IT技術の伝授など高齢者と若者の交流の場も必要と考えます。

空家対策の進捗状況と住環境整備

町長 ▼ 制度化の検討と第6次総合計画で

上原 定住化を見通した住環境整備を、長期的展望を持って対処すべきと考えます。

空家対策の進捗状況と町営住宅の維持管理上の課題や今後の住宅整備の考え方は。

町長 空家は、町内会61軒、実践会29軒で利用可能な物件は51%で利用困難な物件が49%です。

空家対策とは、生活環境の向上と防災・防犯上の危険性回避のため取り壊し等強制的な助言指導勧告等を行うことと二つ目は、利用可能な空家の二次的利用を促進する制度の構築です。

「空家対策特別措置法案」の行方を注視し総体的に検討します。

町営住宅も設備更新が増え財源確保が課題の一つ、また修繕と建て替えの見極めも課題といえます。

住宅規模と入居者数のバランスが取れていないという、管理する側での課題もあります。

第6次訓子府町総合計画の中で、シルバーハウジングなどの建設やユニティースペースの設置も考えなければなりません。

上原 町営住宅敷地内での私物放置が散見されるが対応については。

町長 放置はかなり以前からあり所有者に処分の要求をしていましたが、さらに踏み込んだ費用負担を求める対応も考えなければならぬと考えています。

これからの訓子府図書館が

目指すもの

教育長 ▼ 町民に必要とされる図書館に



西山議員

公民館図書室として歩み出し、33年後の昭和59年11月に現在の場所に開館しました。

西山 今年で開館30周年を迎える図書館の振興計画に基づくその具体策を伺います。

初めに、今までまわづぐりに果たしてきた役割とこれからの図書館が目指すものは何ですか。

教育長 本町の図書館は、昭和26年11月に



開館30周年を迎える図書館

は道内の49・1%でしたが、今年の4月では54・7%の市町村で設置しています。

「住民一人あたりの貸出率」は、昭和60年度と、昭和62年度から平成5年度まで7年連続で、通算8回日本一を達成しました。

図書館には町民が本と出合う「本棚」としての役割と町民が気軽に集える「コミュニティ」としての役割があります。

今後町民に必要とされる図書館であり続けるために、積極的な活動と健全な運営に努めます。

西山 道内と管内の公立図書館の設置状況は、過去と比較でいうと、平成14年4月

連携は。

教育長 各学校図書館担当教諭と意見・情報交換を行う場として、今年度「子どもの読書活動推進会議」を設置しました。

今後学校と図書館が情報を共有し連携を図りながら、子どもたちが本と親しむ機会の確保を進めていきます。

教育長 「学校との連携」「児童センターとの連携」「乳幼児へのサービス」、福祉保健課による「各種支援」の取り組み、「図書館宅配サービス」などサービス内容の周知と充実に努めます。

課題は、電子書籍などのデジタル資料の導入やインターネット環境の整備です。

市街地区及び日出地域の振興策について

町長 ▼ 支援策を早期に検討

西山 市街地区も日出地域も店の灯りが消えて不便で心細いです。これからの振興策、買物支援策をどう考えますか。

町長 高齢者の足の確保として「路線バス高齢者利用支援事業」や「高齢者ハイヤー利用

サービス」を利用していただくよう周知していきます。

これからの買い物弱者対策、支援の仕組みづくりを進め、全町挙げてのまちの振興策や支援策を早期に考えていきます。

一般質問の記事掲載について

一般質問の記事については、一質問者につき二問までを掲載し、内容を要約しています。

その他の質問事項や詳しい内容については、会議録をご覧ください。

会議録は図書館に備えつけてあります。また、町ホームページ(<http://www.town.kunneppu.hokkaido.jp/>)にも掲載しております。

なお、会議録公開については、議会終了後3カ月程度の期間を要します。

災害時応援協定の状況は

町長 ▼ 現在15件の協定を締結しています



余湖 議員

余湖 災害時における各種機関との協定の状況はどうなっているのか。

町長 災害時における応援、相互協力などの協定については現時点で15の協定を締結しています。

相手としては平成10年5月に訓子府郵便局、11年4月に日本水道協会北海道地方支部と協定を結んで以降、北海道及び市町村北海道開発局といった行政機関のほか、生活協同組合・訓子府建設業協会・飲料メーカー・LPガス・電気関

連団体・北見歯科医師会、直近では25年度に北見地方石油業協同組合・全国小さくても輝く自治体フォーラム加入町村・陸上自衛隊美幌駐屯地、また姉妹町の高知県津野町とも締結しています。

締結にあたっては、町と相手先が締結するものと町村会など複数の自治体と相手先が締結するものとの2つの形態があります。

協定の内容につきましては、物資の提供、職員派遣、被害状況の把握や情報提供、復旧工事など相手先によってさまざまな形があります。

特に陸上自衛隊員が派遣される際には本町を含め各市町に居住す

る留守家族に対する支援を行うこととしており、また姉妹町の津野町とは相互の町が被災した場合だけではなく近隣自治体から被災者を受け入れた場合も応援の対象としています。

余湖 現在の各種協定以外に今後必要と考える事項についてどのようなものを考えているのか。

町長 災害対策については万全ということはありませんが、災害が起きたときに何よりも「自分の命は自分で守る」そして「可能であれば近くの人を助ける」といった防災意識を高めることも含め、

家庭や地域の防災力をより一層向上させることが大切であると考

ます。一方で非常時の持出品や備蓄品の準備、防災教育や訓練の実施、避難場所や避難経路の確認などを行うための知識や実践する機会の提供、住宅耐震改修支援などによる住まいの

安全確保、災害に備える手助けとなる災害関連情報伝達システムの構築と普及など行政として自主的な取り組みを促すことや活動環境を整えることも必要と



第2回定例会は、11名の傍聴がありました。

議会を傍聴してみませんか。

第3回定例会は**9月上旬**頃開催する予定です。

議会中の議場の様子を庁舎1階町民ホールにおいて、テレビでも放映しています。議会傍聴に関するお問い合わせは、議会事務局 ☎47-2184へ



公園・街路樹などの樹木管理の考えは

町長 ▼ 巡回調査や地域の情報を受け対応



河端 議員

河端 東京で街路樹の枝が落ちて子どもに当

たり、怪我をしたケースがありました。樹木の管理が行き届かないと思いがけない事故につながります。本町にも多くの公園や街路樹などがありま

すが、樹木管理をどのように考えていますか。町長 近年の異常気象による季節はずれの豪雪や強風により、枝が落下する事例が相次ぎ、危険樹木伐採を行いました。

町長 基本的には今ある樹木の移植を考えていますが、日陰・緑化・花を見るなどを考えて計画的に管理していきます。

河端 新たに整備する銀河公園の樹木選定の考え方は。町長

河端 平成28年の開園を目指して、こども園の概要が決まったが、開園に先がけて整備しなければならぬことがあると思います。来年度から実施される「子ども・子育て支援新制度」の対応は。

河端 「子育てのまち訓子府」をアピールして、若年者に移住してもらうような考えは。



中央公園の巨大木

河端 街路樹が伸びて

河端 街路樹が伸びて

河端 街路樹が伸びて

河端 街路樹が伸びて

電線や電話線などにかかってる箇所もあるがその対応は。町長 電線は危険なので北電に通報して枝おとしを要請しています。N T T 関連の通信線については、町道にかかると物が管理して

に合わせて、後世に伝え残すものを調査整理し総合的に検討します。

認定こども園整備の考え方は

教育長 ▼ 就学前の教育・保育を一本化

河端 平成28年の開園を目指して、こども園の概要が決まったが、開園に先がけて整備しなければならぬことがあると思います。来年度から実施される「子ども・子育て支援新制度」の対応は。

教育長 新制度では保育教諭の処遇・待遇の改善と合わせ、教育・保育の質の向上を目指すこととされており、こども園について施設面と運営面の両方の観点から検討していきます。

教育長 新制度への移行には、国の基本指針に基づいて、地域の保育需要などを把握するため多くの意見を聴いて事業計画を策定中です。

河端 「子育てのまち訓子府」をアピールして、若年者に移住してもらうような考えは。

河端 教諭・保育士・臨時保育士などの職員の仕事や待遇の条件整備をどのように進めますか。

町長 私の政策の柱の一つでもある「子どもたちが元気に育ち、笑顔あふれる町をつくりたい」に向けて施策に取り組んでおり、PRに努めます。

障がい福祉施策の今後に向けての考えは

町長 ▼ 一定の結論を出す時期にきている



工藤 議員

考えを伺いたい。

工藤 平成24年度から平成26年度までの3年間を計画期間とした第3期障がい福祉計画が策定され事業が推進されているが、その中で本町の障がい福祉施策の今後に向けての課題とそれに対しての

町長 最近、同居する親の高齢化により、30代から40代の障がいを持つ方の施設入所やグループホームへの入所に関する相談が増えています。

福祉友の会から、町内にもグループホームを設置してほしいとの要望が出されており、町としても一定の結論を出す時期にきている

と認識しています。

現状としては、近隣市町村の事業所との連携・連絡を密にして、グループホームなどへの入所サービスに対応していきます。

工藤 第4期障がい福祉計画策定をどのような考え方で取り組むのか。また利用者ニーズを当事者の生活実態含めどう把握するのか。

町長 11月頃に福祉友の会、社会福祉協議会、子ども総合支援センター「きらり」などで構成される「障がい者総合支援協議会」を開催し、計画素案の説明とアンケート調査の内容の協議後、障害者手帳を持つている約360名に対し、心身の状況や生活環境、サービス利用

のニーズなどを確認する調査を実施します。それを基に計画原案を作成し、来年2月頃に開催する「第2回障がい者総合支援協議会」において確定します。

臨時職員の通年雇用について検討しては

町長 ▼ 仕事量と行政需要を考慮し雇用している

工藤 本来、恒常的な仕事は正規職員が担うものと考えているが、一気に臨時職員が正職員にならないという現実もわかるが、専門職については通年雇用にすることで専門的技術や経験がより生かされ、役場職員としての役割が発揮できると思うので検討できないか。

町の通年雇用について、町民に対する奉仕者としての職務を高めるうえでも検討しては。

町長 土木や牧場技能員について通年雇用というのは難しい。それぞれ10カ月の中でやりくりして仕事をしてもらっていることと、可能な限り本町の職員として生活できる状況を確認するために努力していることを理解していただきたい。

保育士や保育指導員については、早ければ平成27年度から雇用の実態を改善できるようにしていきます。



第3期障がい福祉計画

「議会だより」についてご意見をお寄せください。

議会に対するご意見や、議会だよりを見て感じたことなどどんなことでも結構です。

どうぞ議会事務局までご意見をお寄せください。

☎ 47-2184・FAX 47-2600 ✉ gikai@town.kunneppu.hokkaido.jp



ひとことインタビュー

訓子府中学校の生徒3名が
一般質問を傍聴しました。

引率の先生に、生徒のみさんの感想を聞きました。

◆議会を傍聴したきっかけは？

生徒の一人が議会開催のポスターを見て、傍聴を希望したことから、校外学習として「町議会見学」を実施しました。

◆傍聴した感想は？

生徒の感想は、「難しくて分からなかった」が大半でしたが、「訓子府町のことをここで決めている事が分かった」と、理解してくれた生徒もいました。

私たち教師も町議会の役割として「自分たちの事、つまり自分たちに関係した身近なことを話し合い、決めている」ということを理解してもらいたいと考えていましたので、校外学習の目標を達成できたと考えています。

今後も本校の教育活動の一環として町議会傍聴をはじめとした町政を生徒たちの身近なものにする取り組みについても考えていきたいと思えます。

議決した意見書

－議員提案により次の意見書案が提出され、原案のとおり可決し、政府関係機関に意見書を提出しました。－

◆「手話言語法（仮称）」の制定を求める要望意見書

・国においては、「手話言語法（仮称）」を制定されますよう強く要望します。

◆所得税法第56条の廃止を求める要望意見書

・所得税法第56条を廃止すること。

※所得税法第56条

配偶者その他の親族が、事業に従事したことにより受ける対価は、事業所得の必要経費に算入しない。（条文要旨）

◆規制改革会議意見書の取扱いに関する要望意見書

・「農林水産業・地域の活力創造プラン」改訂にあたっては、真に農業者の所得向上・地域生活インフラの維持向上・国民に対する食料供給の安定確保・農地の適正利用に資するため、農業団体並びに生産現場や地域の意見を十分に反映させる観点で、規制改革会議の意見書を取扱うこと。

津野町議会議員一行が来町

5月14日・15日に、本町と姉妹町である津野町議会から全議員10名及び議会事務局長が、表敬訪問のため来町されました。

役場での歓迎セレモニーや津野町のヒノキを使用した児童センター「ゆめゆめ館」の視察、関係者との交流会などを実施したほか、翌日には、北見農業試験場、町営共同利用模範牧場、歴史館などを視察しました。

今回の来町は、二日間という短い日程での交流でしたが、両町の絆がより一層、深まりました。



議会報告会にかかる町への申入れ事項

—4月10日・12日に実施した「議会報告会」にて町民のみなさんからいただいた意見・要望について次のとおり町・教育委員会へ申し入れを行いました。—

◆居武士小学校のこれからについて

居武士小学校の保護者の方たち、地域の方たちの意見を尊重するよう求めました。

◆パークゴルフ場の出入り口道路の拡張・整備、公認コースの申請、自動販売機の設置について

パークゴルフ協会と十分な協議を行うよう教育委員会へ求めました。

◆日本型直接支払制度について

行政として農業者が抱えている不安などが解消されるよう、地域に対し内容を明確に伝えるよう求めました。

◆町の情報発信について

ホームページの内容の充実を求めました。

◆住宅政策について

高齢者の住宅問題も含め、将来に向けた住宅施策の検討を求めました。

◆訓子府高校の存続について

入学生確保にむけ、町と高校とが連携したPR活動を求めました。

◆職員の労働環境及び人材育成について

業務が滞ることのないよう、業務量と職員のバランスを考慮するとともに、職員の人材育成について積極的に取り組んでいくよう求めました。

防災講演会を開催しました

東日本大震災から学ぶ

～災害の裏側～



6月20日（金）に公民館多目的ホールにおいて「前石巻地区消防長 星幸三郎氏」を迎えて「東日本大震災から学ぶ」と題しての防災講演会を町議会の主催、訓子府町・消防団・町内会連協・実践会連協の後援で開催しました。

当日は平日の夜間にもかかわらず、約百名を超す町民のみなさんが集まり講師の話に真剣な表情で耳を傾けていました。

星氏は東日本大震災の時に石巻地区の消防の責任者として「人命救助・捜索活動」の指揮を執った方で最も現場の切身を知る方です。

訓練とは異なる悲惨な現場での捜索、全国各地からの消防署員の応援の実態、同僚の署員の死亡、復興に対する住民の気持ちなど、責任者ならではの話を聞くことが出来ました。

まだまだ東北の復興は道半ばです。我々はこれからも忘れる事なく、いろいろな形での応援を続けていくべきだと感じました。

（余湖）



北海道町村議会議員研修会

7月4日(金) 札幌市 コンベンションセンター

「議会改革のこれから」

法政大学法学部教授 廣瀬克哉氏

地方分権により、各自治体は拡大された自己決定権を獲得し、それに対する自己責任を負うこととなった。

今後の取り組みの心構えとして何点かの課題を示していた。

○議会の完全自治体としての責任と縮小時代の自治体経営

○議会改革の広がりでは、議会報告会と議会への住民参加

○合議体の必要性では、複数の視点の討議により、深いレベルまで論点が見えてくる

等、他にも議会改革が直面する具体的な内容のテーマを上げていた。

「これからの日本の政治」

読売新聞特別編集委員 橋本五郎氏

今は、高齢化の時代どの地域の小さな村であっても、

住民が心豊かに暮らし、心が通

い合えることが、

真の自治体の姿

であり、「これからの日本の政治の目指すもの」とむすんだ。

(佐藤)



防災学習交流センター「そなえーる」

7月5日(土) 千歳市 防災学習交流センター

7月5日千歳市防災学習交流センター「そなえーる」を視察しました。

ここは災害について「学び」「体験し」「備える」ための施設として、

平成22年4月開設(国の補助事業として総事業費約21億円)

災害時には、災害対策の拠点として使用するそうです。

印象強かったのは、体験コーナーで、「地震体験」「煙避難体験」

「避難器具体験」などがあり、実際に災害に遭遇した時に冷静な判断や、慌てずに避難できるかとも不安です。

そこで「救助袋」や「緩降器」を体験してみました。見るのとやるのは大違いで冷汗をかきました。

災害について体験し備えることの必要性を学

びました。

(西山)

煙避難体験



煙避難体験

橋本憲治議長

自治功労者表彰受賞

町議会議長として、7年以上在職し、地方自治振興に寄与された功績に対して、6月5日に札幌市で開催された北海道町村議会議長会総会にて表彰されました。

小林一甫議員・佐藤静基議員・山本朝英議員

自治功労者表彰受賞

町議会議員として、15年以上在職し、地方自治振興に寄与された功績に対して、北海道町村議会議長会から、表彰されたもので、6月18日第2回定例会に於いて、橋本議長より表彰状が伝達されました。



